

## カルタの基礎

## キーワードから発想を広げていこう

まず、自分がたくさんのもを連想できそうなキーワードをひとつ思い浮かべます。このキーワードを中心に、そこから次々とカルタの枝葉を茂らせていきましょう。最初は思いつくままに、とにかくできるだけ多くの言葉へと発想を広げていくことが大切です。

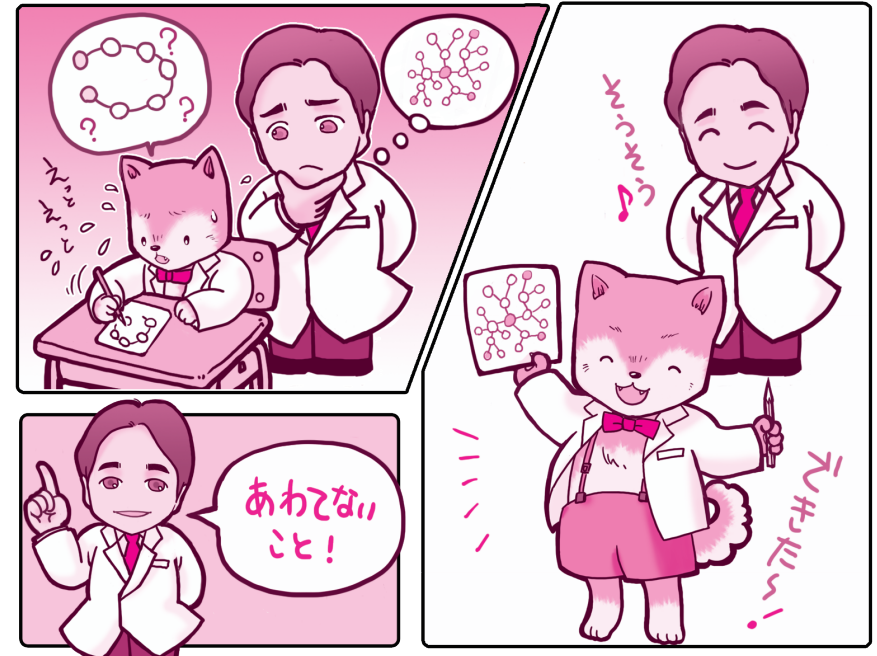
「正解」もなければ「間違い」もありません。しかし方向としては、中心のキーワードからいくつもの枝を出し、次のキーワードからもいくつかの枝……というように、立体的な思考をしていくことが柔軟な発想力のトレーニングになります。

## あわてず急がず、しかし止まらずに

このときに大事なことは、最初のキーワードから急いで直線的に「A→B→C→D→…」と枝を伸ばしていくのではなく、「Bではなく他にもAから思いつくものはないだろうか」「BからはC以外にも考えられるものがあるのではないかと」、頭を柔軟にしていろいろな状況を思い浮かべていくことです。それぞれのキーワードから4つずつくらい枝を出すことができれば理想的です。

逆に、全然連想が働かず、次の言葉が見つけれられない人もいるかもしれません。そういうときには、そのキーワードは何を表すものなのか、どういう機能をもつものか、どんな特徴をもっているかなどということをきっかけにして、発想を広げていくようにします。

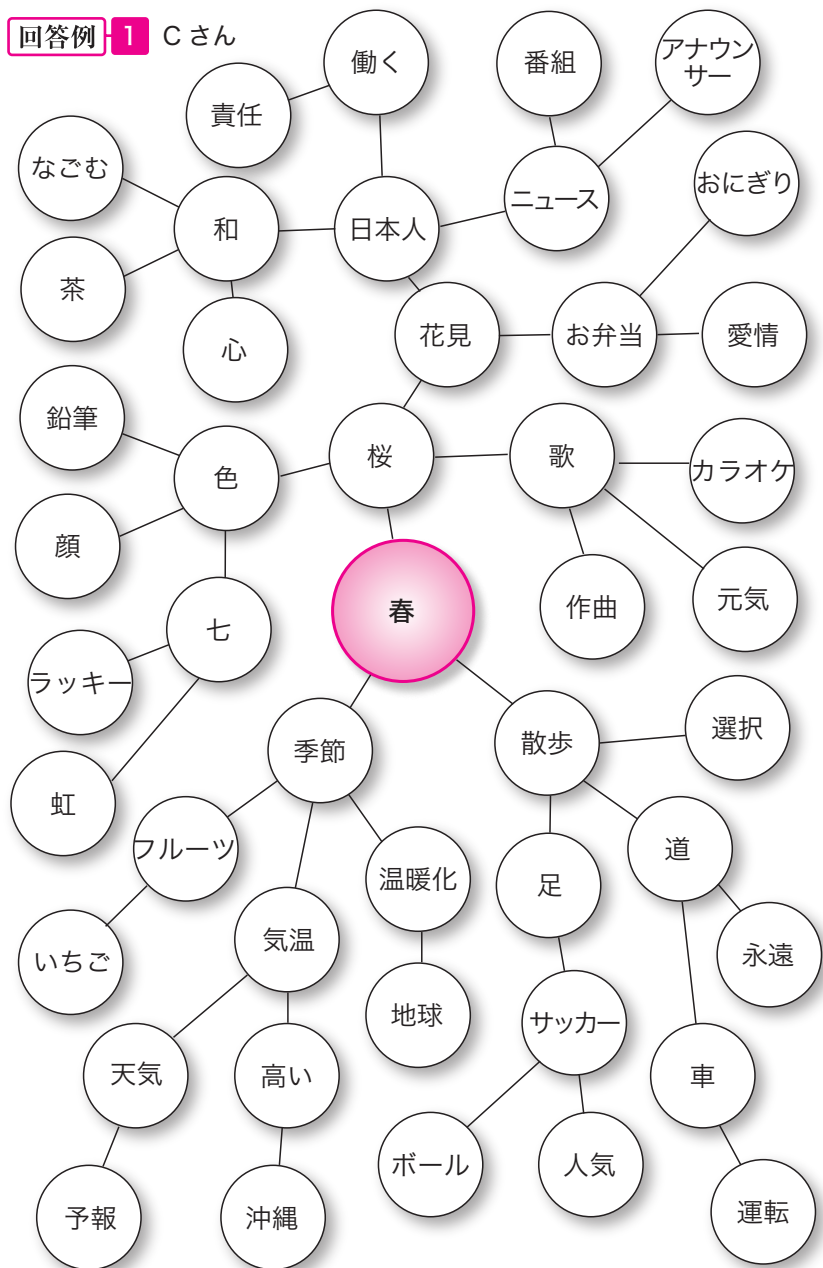
あわてずじっくりとさまざまな可能性を考え、しかし手は止めずに次々と枝を広げていくことで、基礎的な発想力をしっかりと育てていくことができるのです。



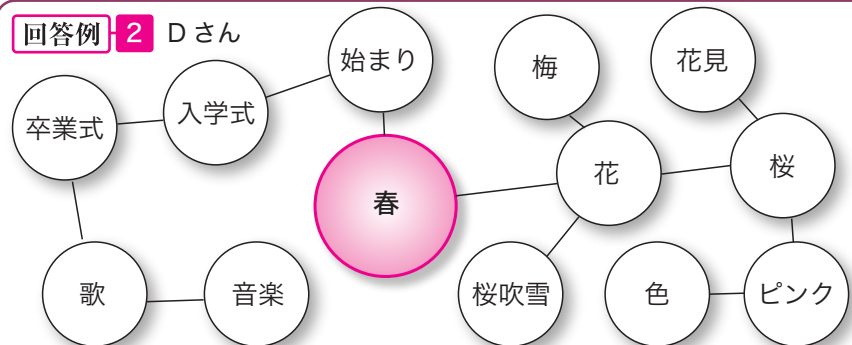
**例題** 「春」というキーワードを円の中に書き、思いつくままに連想してください。

春

回答例 1 Cさん



回答例 2 Dさん



### 自由な連想でカルタの枝を広げよう

まずCさんの回答を見てみると、最初のキーワードである「春」から「桜」「季節」「散歩」と3つの枝が出ており、そのそれぞれからまた3つの枝が分かれています。さらにその先も、ひとつの単語から2つないし3つの枝が出ており、全体として非常に大きなカルタを形成しています。これは物事にとらわれずに自由に連想を展開できたことを示しており、発想力に優れた例といえます。

次にDさんのカルタでは、最初の「春」からは2つの枝が出ていますが、その一方の「始まり」からは「入学式」「卒業式」「歌」「音楽」と直線的に枝が伸びてしまっています。ひとつ言葉を得たら満足してしまったのかもしれませんが、こういった「単線思考」ではさまざまな可能性を考えるとできず、幅の狭い思考に終始してしまい、発想の広がりを期待することはできません。

この状態を改善するためには、「『始まり』から連想できることは他に何があるだろう」、「『入学式』から思い浮かぶものは『卒業式』だけだろうか」という問いを立て、1つひとつの言葉からいくつもの枝を出していくような形で連想を進めるようにしましょう。逆側の「花」からは3つの枝が出ていることを見れば、他のところでもこういった形で発想を広げていくことは十分できるはずです。